

## 【授業科目】急性看護学特論Ⅱ（クリティカル状況でのフィジカルアセスメントに関する科目）

担当教員		開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
杉崎一美		1年次前期	選択	2	30	講義	巻末掲載
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>クリティカル状況の臨床判断能力を高めるために、具体的な観察技術、系統的フィジカルアセスメントの技術を、急性・重症患者の特徴を踏まえながら講義演習を通して修得できるように進める。シミュレーションモデルの活用ができるように計画する。また、臨床の場における技術演習等の履修を各自が実践の場で活用できるようにしていく。講義については実務家教員（杉崎）が行う。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートにコメントをつけて返却する。或は全体の総評コメントを授業内で提示・プリント配布により公開する。</p>						
授業の位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシーの②、③、④の達成に寄与している。						
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①クリティカルケア・集中治療を必要とする患者の生理学的変化、生活行動、機能回復の状況を把握する観察枠組みを理解し、高度専門職としてのフィジカルアセスメントの観察の枠組みおよび技法を修得できる。</p> <p>②客観的に開発されている臨床判断のためのガイドラインも活用して高度看護実践者としての臨床実践ができる。</p>						
時間外学習に必要な内容・時間	<p>配布資料及び紹介する文献は授業以外にも読むことで授業の理解を深める（各60分）。</p> <p>臨床での看護実践を授業内容に生かし、学びを深める（各60分）。</p> <p>授業で紹介する文献以外にも自ら文献レビューを行い、課題レポートを作成する（各120分）。</p>						
	<p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>						
授業計画	<p>&lt;クリティカルケアを必要としている患者のフィジカルアセスメントの特徴&gt;</p> <p>第1回 クリティカルケアにおける観察/フィジカルアセスメントの重要性と看護の特徴</p> <p>第2回 クリティカルケアを必要とする患者に対するモニタリング機能と看護の責務</p> <p style="text-align: center;">Body-mind-spirit 統合体としての患者理解</p> <p>&lt;重症・集中治療を必要とする患者の主要なフィジカルアセスメント&gt;</p> <p>第3回 循環・心機能、機能維持・回復・悪化のアセスメント</p> <p>第4回 呼吸機能、機能維持・回復・悪化のアセスメント</p> <p>第5回 脳・神経機能、機能維持・回復・悪化のアセスメント</p> <p>第6回 腎機能・体液バランスの維持・回復・悪化のアセスメント</p> <p>第7回 栄養・代謝・内分泌機能の維持・回復・悪化のアセスメント</p> <p>&lt;重症・集中治療をする患者・家族の生活行動のアセスメント&gt;</p> <p>第8回 日常生活行動：運動・睡眠・休息・食事・清潔・排泄行動のアセスメント</p> <p>第9回 コミュニケーション能力、環境への適応力 等のアセスメント</p> <p>&lt;臨床判断を高めるためにEBNに基づくガイドラインとアセスメント&gt;</p> <p>第10回 重度侵襲に対する生体反応のメカニズムの知識を活用したアセスメント（ゲスト：柴山美紀根市立四日市病院 救命センター医師）</p> <p>第11回 重症患者の体液管理とアセスメント（1）</p> <p>第12回 重症患者の体液管理とアセスメント（2）</p> <p>第13回 重症患者の皮膚・粘膜のアセスメント</p> <p>第14回 ICU、ポストクリティカルケアユニットにおけるフィジカルアセスメントの実際</p> <p style="text-align: center;">例：脳卒中患者の事例（ICU）</p> <p style="text-align: center;">呼吸ケアチーム Respiratory-care-Support-Team (RST) の活動 等</p> <p>第15回 上記の実習/演習後に、さらに心機能評価を技術演習室や視聴覚教材、シミュレータ、モデルの活用、集中治療室において心胸部比、心音、心拍出量モニター、血行モニタリング、血行受動パラメータの解釈 等の学修を補完する。</p>						杉崎 杉崎  杉崎 杉崎 杉崎 杉崎 杉崎  杉崎 杉崎 杉崎  杉崎
評価方法 評価基準	<p>授業参加状況 10%、プレゼンテーション 50%</p> <p>課題レポート 40%（EBNに基づいたクリティカルケアが必要な患者のアセスメント）</p>						
教科書	必要時提示		参考書等	Lynn S. Bickly, 有岡宏子監訳：ベイツ診察法（第3版）メディカル・サイエンス・インターナショナル、2022.			